演目の説明

加島（かしま）

　高天原から出雲に降り立った経津主（ふつぬし）と武甕槌（たけみかづち）が、大国主命（おおくにぬしのみこと）に国を譲るよう談判します。大国主は「自分は承諾するが、2 人の息子にも尋ねよ」と返答します。

　第一の王子、事代主（ことしろぬし）は承諾をしますが、第二の王子、建御名方（たけみなかた）は承知しなかったために戦となりました。事代主は「恵比寿」とも呼ばれており、また、建御名方と武甕槌の力対力の戦いが相撲の始まりだという言い伝えもあります。

**見どころ**

　国譲り神話を神楽化した、神と鬼ではなく神と神が戦う珍しい演目です。